

令和 5 年

# 「生殖補助医療技術論」

を紹介します。

皆さんは、<sup>はいばいようし</sup>胚培養士という職業をご存じでしょうか？

生殖補助医療、すなわち不妊治療に従事する者のうち、特に直接卵子や精子、受精卵（=胚）を扱う業務を行う者を胚培養士と呼びます。不妊治療で生まれる子の数は年々増加しており、2020年では6万人を超えています。不妊治療に深く携わる胚培養士は、今、非常に注目を浴びている職業です。

そんな胚培養士として働くのは、どのような人たちなのでしょう？ 実は、半数ほどは臨床検査技師なのです。本学の卒業生も、多くの方が胚培養士として活躍しています。



受精卵



病院での実習風景

本学では臨床検査学科3年生を対象に生殖補助医療技術論を開講しています。この科目では、胚培養士として働くための生殖補助医療技術の基礎と倫理を学ぶことができます。

- ・産婦人科医による性周期や婦人科疾患、生殖生命倫理についての講義
- ・臨床検査技師による超音波検査や不妊症、生殖補助医療技術についての講義
- ・胚培養士による生殖補助医療技術の見学、演習（実際に病院で行います！）

本学で、生殖補助医療技術について学んでみませんか。お待ちしております。

臨床検査学科（小河佳織）